

## F-1

## 歴史的変遷からみた鎌倉における徒歩観光を促す観光まちづくりに関する研究

## —(その1)近世・近代紀行文にみる観光客の「通り」への意識に着目して—

## A Study on Sightseeing City Planning which Promotes "TOHO-KANKOU" in Kamakura

## —(Part 1) A focus on the value of the "Street" —

○瀬畑尚紘<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>3</sup>, 押田佳子<sup>3</sup>, 青木佑太<sup>4</sup>\*Takahiro Sebata<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>3</sup>, Keiko Oshida<sup>3</sup> and Yuta Aoki<sup>4</sup>

**Abstract:** This purpose is to grasp the conscious of the "Street" in tourists through an analysis of 25 travelogues of Kamakura from the early modern age to modern. As a result, early modern tourists had the conscious of the "Street" higher than modern tourists. Actually, early modern tourists used the "Street" as a mark, when they traveled, and they were checking the position of the "Street" itself.

## 1. 研究背景および目的

国際観光都市である鎌倉(神奈川県鎌倉市)は、武家文化豊かな名所旧跡に溢れ、年間約 1900 万人もの観光客が訪れている。この鎌倉に関する筆者らの先行研究では、鎌倉観光の黎明期といえる近世を対象に、その当時は数日かけて名所旧跡を縦横無尽に巡る徒歩観光が成立していたこと<sup>[1]</sup>、また鉄道が市内に導入された近代になると徒歩観光と鉄道利用を合わせた「乗り・歩き」という新たな鎌倉観光を成立させてきたことを捉えてきた<sup>[2]</sup>。この点につき、近年のわが国では健康増進ブームにより「歩けるまちづくり」と称し、地域活性化のひとつとして徒歩観光が見直される機運が高まりつつあることをふまえると<sup>[3]</sup>、鎌倉においても今一度徒歩観光を推進すべきと考える。その達成にあたっては徒歩観光の際に、多様な表情を魅せる「通り」への意識が重要であるといえよう。

そこで本稿では、鎌倉を対象として、徒歩観光の骨格をなす「通り」に着目し、近世から近代における観光客の名所旧跡を巡る際の「通り」に向けられた意識や価値を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

本稿では、当時の観光客の「通り」に対する意識等を把握するため、「鎌倉市史近世近代紀行地誌編」<sup>[4]</sup>に網羅的に掲載されている、近世に出版された紀行文全 31 文献のなかで、観光客の道中の様子が把握可能である紀行文 18 文献、さらに、近代に出版された紀行文全 12 文献のなかで、近世における鎌倉観光に甚大な影響を及ぼした鉄道(横須賀線)の開通年である 1889 年以降に出版された 7 文献を含め、計 25 文献の記述文の読取りを行う。

## 3. 結果および考察

上記 25 文献より抽出した通り名およびその記述文を Table 1 に示し、以降はこの表をもとに考察を行う。

## (1) 近世における「通り」への意識

Table 1 より、近世紀行文には近代のものとは比べ通り名の記述が多数見受けられ、近世当時の観光客における「通り」に対する意識の高さがうかがえる。特に、近世において鎌倉内外を結ぶ「鎌倉七口」は、18 文献中 14 文献と最も記載が多く、鎌倉に多数存在する名数名所の一つとして古くから親しまれたことより、観光客の意識は極めて高かったと考えられる。「段葛」は 7 文献、「若宮小路」は 4 文献でみられ、これらは鶴岡八幡宮の参道かつ鎌倉におけるメインストリートであるため記載数も多かったといえる。これらに続いて 5 文献にみられた「長谷小路」は、若宮小路の枝道として主要観光名所である長谷寺へと通じていることから通行頻度および知名度が高く、記載数も多かったと考えられる。また、記述の特徴としては、「15. 金草鞋」の「今かうじをすぎて、(略)」といった通過の際の目印であったことにくわえ、「8. 相中紀行」の「今小路より東の方雪の下へ行く小路を岩窟小路といふ」とあるように、「通り」が道中で持続する期待感を含ませる記述がみられ、近世の観光客にとって「通り」は単なる拠点間の通路ではなく、観光客をも魅了する要素であったといえよう。

## (2) 近代における「通り」への軽視

Table 1 より、近世に比べ近代紀行文では通り名の記述が激減し、近代当時の観光客における「通り」への意識は低下した。そのなかで「通り」は「25. 鎌倉名勝誌」の「(例)名所、説明」といった案内書特有の観光拠点の宣伝を中心とした記載へと変化した傾向を捉えた。その記述の特徴として、「24. 現在の鎌倉」では通り名の記載数は多かったものの、若宮大路を「八幡道」、大仏道を「大仏前通り」、今小路を「大町原から長谷に出る通路」、小町大路を南北に分離して「小町通り」と「大町通り」というように、観光拠点や地名に影響を受けた通り名へ改名されたことにくわえ、「25. 鎌倉名勝誌」では、

1 : 日大理工・院・不動産 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通 4 : 日大理工・学部・交通

「鎌倉倶楽部(中略)倶楽部は若宮大路にあり、(以下略)」とあるように、「通り」が拠点を指し示す程度利用に変化した。このようにして、「通り」は徐々に観光要素としての意義が希薄化した様子が捉えられた。

Table 1. Description about the "Street" of Modern Travelogues<sup>\*1</sup> (This is the original table by authors.)

No.	文獻名	年代	著者	通り名	記述文(赤色の斜体文字は通り名に該当する箇所を示す)
1	鎌倉順礼記	1633	沢庵宗彭		
2	東海道名所記	1658	浅井了意		
3	鎌倉日記	1674	徳川光圀	鎌倉七口 金沢街道 小坪道 琵琶小路 今小路 長谷小路	※名越切通、朝比奈切通、巨福呂坂、亀谷坂、化粧坂、大仏切通、極楽寺切通、全七口の記載あり。 此ヨリ細路ヲ東南へ回り、 <b>金沢街道</b> へ出ル。 此外ニ <b>小坪道</b> 、小坪ノ松林ヘカカリテ行也。路程十里余アリト云。 鳥居ノ間ノ道ヲ、 <b>琵琶小路</b> ト云也。 異荒神 <b>今小路</b> ノ出崎、左ノ杉森ノ内ノ堂ヲ云。 左介谷 <b>長谷小路</b> ノ谷ノ口開ケリ。甘細明神 笹目谷ノ西、 <b>長谷小路</b> ノ行ノ路ノ北ノ谷ニ茂林アル所也。
4	鎌倉紀	1680	自住軒一器子	鎌倉七口 金沢街道 若宮小路	※朝比奈の切通、こぶくろ坂、けはひ坂、名越坂、大仏の切通、極楽寺の切通、六口の記載あり。 鐘の聞えければいづこといへば、稲荷山浄明寺とて、五山第五の寺此山のうしろに有と答ふ。そのきは馬ひやし堀にて昨日の暮に通りし、 <b>金沢の流道</b> 也。 文永八年九月十二日の夜、日蓮鎌倉若宮小路より引にだされ、此所にてきられ給べきよしなりしが、さまたまのきと有て助け給ふ。
5	東海済勝記	1762	三浦迂斎		
6	東路の日記	1767	未詳	段葛 鎌倉七口	<b>だんかつら</b> といへるはいかなるものにやと漸くおかしがりつゝ思ひやり侍りに、こゝなん <b>だんかつら</b> なりといふを見れば、鳥居の前の道のまなかの左右に土もて小高くつきたるにぞうあたるなり。 ※極楽寺の切どほし、一口の記載あり。
7	草まくらの日記	1773	本居大平		
8	相中紀行	1797	田良道子明甫	鎌倉七口 大仏道 長谷小路 琵琶小路 段葛 横大路 若宮小路 小坪道 今小路 岩窟小路 金沢街道 釈迦堂切通	※極楽寺の切通、大仏の切り通し、小袋坂、名越坂(名越の切通)、化粧坂、朝夷奈切通、六口の記載あり。 寺を出て町の半北の方ニ <b>大仏道</b> 有。是より大仏に至る。 窟を去て宿屋村を東の方へ行ハ路の北森の中に甘細明神有。(中略これより東の方 <b>長谷小路</b> を経て雪の下の旅亭に至る。夫より大鳥居。二の鳥居を入て西の方に道有。是より <b>長谷小路</b> に至る所の鳥ハ専ら屋敷といふ。此 <b>長谷小路</b> より北の方今小路に至る所の橋を裁許橋と爲。是ハ佐介が谷より流れ出る川に渡せる橋也。/長谷小路より佐介が谷二入手の右の山の出崎を天狗堂といふ。昔愛に愛宕の社有けると也。/此寺を出て南の方裁許橋迄を今小路といふ。又其南の方ハ <b>長谷小路</b> 也。 一二の鳥居皆同じ。是より北ノ鳥居迄六丁四十五間有。此間の道古へい外の方へ曲りて其形琵琶の如し。故に此所を <b>琵琶小路</b> といふ。 一ノ鳥居より二ノ鳥居までの道中央一段高し。是を <b>段葛</b> とも <b>葛</b> ともいふ。 一ノ鳥居の前東西の通路を東鑑ニ <b>横大路</b> と稱し、又一ノ鳥居より浜の大鳥居迄を若宮大路と稱す。今鑑橋とも <b>若宮小路</b> と稱す。 一ノ鳥居の前東西の通路を東鑑ニ <b>横大路</b> と稱し、又一ノ鳥居より浜の大鳥居迄を若宮大路と稱す。今鑑橋とも <b>若宮小路</b> と稱す。又鶴が岡一ノ鳥居の前より東の方 <b>若宮小路</b> を行きつき当りに寺有。宝戒寺といふ。/明日雪の下を発して東の方 <b>若宮小路</b> より至戒寺門前を東北の方へ行ハ橋有。筋替橋といふ。 東の方に切通有。 <b>小坪の切通</b> といふ。社戸三崎へ行ク道也。/小坪ノ流道ノ北ニ正覚寺といへる寺有。光明寺の末寺也。 北の方に異の荒神有。是ハ <b>今小路</b> の南にして奉福寺の裏に在故二名、本奉福寺の鎮守也。/此長谷小路より北の方 <b>今小路</b> に至る所の橋を裁許橋と爲。是ハ佐介が谷より流れ出る川に渡せる橋也。/此寺を出て南の方裁許橋迄を <b>今小路</b> といふ。/今小路より東の方雪の下へ行ク小路を岩窟小路といふ。 今小路より東の方雪の下へ行ク小路を <b>岩窟小路</b> といふ。/岩窟小路より東北の方雪の下を行ハ東の方路傍に井有。是を鉄井といふ。 是より東の方ハ大蔵村にして朝夷奈切通までハ <b>金沢街道</b> 也。/鳥居の前東の方 <b>金沢道</b> に橋有。是を歌橋といふ。/大蔵村より東の方往栴/天神へ歌ノ橋を渡りて <b>金沢道</b> へ行ハ、北の方ニ杉本の観音堂有。大蔵山と号す。坂東順礼札所の第一也。 <b>釈迦堂切通</b> が谷との間ニ <b>段葛</b> の道有。是より名越へ出也。是昔の本道と見たり。平家物語ニ二鳥山と三浦との合戦の時、三浦ノ次郎義茂鎌倉へ立寄たりけるが、合戦の事を聞て馬に打乗大懸坂を馳越て名越二出ると有ハ此道なり。
9	三浦紀行	1801	一鶴堂白英	鎌倉七口 今小路 長谷小路 段葛	※名越の切通し、一口の記載あり。 <b>今小路</b> より銀治正宗屋敷跡。其西の方に仏師運慶が宅地の跡も在り。 丸塚・専ら屋敷を余所に見て <b>長谷小路</b> へ出。由井の長者が子の為に建造して、石の塔など住み見たり。長き事なれば是を洩らす。 かゝる所の秋なりけりとゆらうたふ。 <b>段葛</b> や日の影うとき草の露/居て申うしろや霧の <b>段葛</b>
10	江の島	1805	大鳥完来	鎌倉七口 長谷小路 段葛	※巨福呂坂、朝夷奈切通、二口の記載あり。 <b>長谷小路</b> にて源七なるもの、むかひに出たると来て里に逢ふて伴ひ過る。 大町村へ入所の身替り地蔵碑は開帳とて <b>だんかつら</b> の通なる片辺に、板もてあやしき家つりしたるに、地藏尊たもせ給ふ。俗よんで前出し地藏といへる。 <b>段葛</b> 半ばに琵琶橋・中の鳥居、雪の下、泊宿軒をつらわたり。 一の鳥居こにもかいて左りかたを、雪の下 <b>若宮小路</b> といふ。/ここよりもの路に降りて <b>若宮小路</b> へ出る。
11	鎌倉日記	1809	扇雀亭陶枝	鎌倉七口 今小路 長谷小路 段葛 若宮小路	※巨福呂坂、一口の記載あり。 尤此地表面のみ家作有て裏手は島などれば家数約百余軒も類焼せしならんが、左よりへ <b>段かつら</b> 通り見れば家々は皆焼亡しける。 ※名越の坂、小袋坂、朝比奈切通(朝比奈が切通し)、三口の記載あり。 ※朝比奈の切通し、一口の記載あり。 それよりさゝめがたに、 <b>今小路</b> をすて、右のかたにてんぐどあり。 <b>だんかつら</b> といふこいちのとりあり。 ※あさひのきりどほし、なごしみち、なごへざか、けわいざか、こぶくろざか/小ぶくろざか、五口の記載あり。 それよりほうめうし、六かの井、しじまより <b>こつほみち</b> あり。 ※朝夷の切通し、巨福呂坂、極楽寺のきりどほし、三口の記載あり。 ※朝比奈の切通し、小袋坂、けはひ坂、三口の記載あり。 岩屋堂・浄見寺の前を過て、 <b>若宮小路</b> こいたる。 灯火をたして、 <b>だんかつら</b> 二の鳥居を過て、ひは橋前より右へ、はせ小路こいたる。 灯火をたして、 <b>だんかつら</b> 二の鳥居を過て、ひは橋前より右へ、 <b>はせ小路</b> こいたる。右のかたに、ばせを翁の碑有。 ※朝比奈洞道、小袋坂、亀谷坂、化粧坂、極楽寺坂、五口の記載あり。 <b>今小路</b> 線工正宗所居子孫今在、田間有景清女人丸塚、經由比入長谷村、(以下略)
12	遊歴雜記	1821	十方庵大浄	鎌倉七口	※巨福呂坂、一口の記載あり。
13	江の島の記	1821	菊池民子	鎌倉七口	※朝比奈の切通し、一口の記載あり。
14	鎌倉日記	未詳	祖 祐	鎌倉七口 今小路	※朝比奈の切通し、小袋坂、極楽寺切通し、三口の記載あり。 それよりさゝめがたに、 <b>今小路</b> をすて、右のかたにてんぐどあり。
15	金草鞋	1833	十返舎一九	段葛 鎌倉七口 小坪道	<b>だんかつら</b> といふこいちのとりあり。 ※あさひのきりどほし、なごしみち、なごへざか、けわいざか、こぶくろざか/小ぶくろざか、五口の記載あり。 それよりほうめうし、六かの井、しじまより <b>こつほみち</b> あり。
16	鎌倉御覽日記	1835	小山田与清	鎌倉七口 鎌倉七口	※朝夷の切通し、巨福呂坂、極楽寺のきりどほし、三口の記載あり。 ※朝比奈の切通し、小袋坂、けはひ坂、三口の記載あり。
17	江の島紀行	1855	李 院	若宮小路 段葛 長谷小路	岩屋堂・浄見寺の前を過て、 <b>若宮小路</b> こいたる。 灯火をたして、 <b>だんかつら</b> 二の鳥居を過て、ひは橋前より右へ、はせ小路こいたる。 灯火をたして、 <b>だんかつら</b> 二の鳥居を過て、ひは橋前より右へ、 <b>はせ小路</b> こいたる。右のかたに、ばせを翁の碑有。
18	東海紀行	1859	小田切日新	鎌倉七口 今小路	※朝比奈洞道、小袋坂、亀谷坂、化粧坂、極楽寺坂、五口の記載あり。 <b>今小路</b> 線工正宗所居子孫今在、田間有景清女人丸塚、經由比入長谷村、(以下略)
計	鎌倉七口(14件)、段葛(7件)、長谷小路(5件)、今小路(5件)、若宮小路(4件)、金沢街道(3件)、小坪道(3件)、琵琶小路(2件)、大仏道(1件)、横大路(1件)、岩窟小路(1件)、釈迦堂切通(1件)				
19	鎌倉日記	1889	奈良原時子		
20	東海東山漫遊案内(抄)	1892	野崎左文	金沢街道	頼朝屋敷跡は八幡宮の東 <b>金沢道</b> の傍らに在り。
21	散文讀文 雪月花	1894 1896	大和田建樹	鎌倉七口	※極楽寺切通、一口の記載あり。
22	日本海陸漫遊の榮 上	1903	野崎左文 洲崎魚揚		
23	細菌学雜誌臨時増刊 ローベルト・コッホ氏 歓迎記念号	1908	細菌学雜誌社		
24	現在の鎌倉	1912	大橋左狂	大仏道 長谷小路 鎌倉七口 段葛 今小路 金沢街道 若宮大路 (若宮小路) 小町大路	由比ヶ浜下馬には常盤屋の磯羊羹、長谷に至りては <b>大仏道</b> の鎌倉婦女體頭等がある。 此員細工、黄金輪は特に鎌倉名物と称されて江の島のみではない、八幡前は勿論 <b>長谷通り</b> 、片瀬江の島通に至る迄各所に陳列販売して居る。(更に六地藏前を西へ <b>長谷道</b> を進めば七町余にて長谷の観音に至るのである。 ※巨福呂坂(巨福呂坂)、化粧坂、極楽寺坂、亀ヶ谷坂、四口の記載あり。 それより一段高土が築かれて八幡社前に至る五丁余の芝草敷かれた中央路を俗に <b>段葛</b> と称してある両側の通路には商家軒を並べて居る。 此寺(奉福寺)の前を南に進めば御用邸前を過ぎて <b>大町原</b> から <b>長谷</b> に出る <b>道</b> がある。 それより <b>金沢街道</b> に出れば杉本寺、報國寺、熊野社、浄明寺、足利公方屋敷、明王院、光融寺、十二所神社等がある。/ <b>金沢街道</b> を東に戻り大倉の部落を過ぎて雪の下に出でんとする左側に一大古刹がある。 又停車場を降りて <b>小坪道</b> に出て、左二の鳥居を右折して小町通りに出て、小町氏神恵比寿社前を北に進めば、一丁余にして日蓮上人説法古跡がある。/ (略)横須賀線鉄橋の下を過ぎれば又四辻がある。正面は <b>一の鳥居</b> を経て <b>由比ヶ浜海</b> に至る <b>道</b> である。 又停車場を降りて八幡道に出て、左二の鳥居を右折して <b>小町通り</b> に出て、小町氏神恵比寿社前を北に進めば、一丁余にして日蓮上人説法古跡がある。/ 同寺(妙本寺)を出て <b>大町通り</b> を南に進めば左側に牡丹餅寺・八坂神社等を見て大町の四辻に出る。此辻を西に進めば延命寺がある。
25	鎌倉名勝誌	1916	佐成謙太郎	若宮大路 (若宮小路) 小坪道	鎌倉高等女学校 <b>若宮大路</b> 一の鳥居より北にあり。/鎌倉倶楽部(中略)倶楽部は <b>若宮大路</b> にあり、(以下略)。 材木座の石段同 <b>小坪道</b> に一見事なる石段同あり、その広さ昔山賊の家かとも疑われ、その割石、石碁、ともに完全な標本として注目すべきものである。
計	鎌倉七口(2件)、若宮大路(2件)、金沢街道(2件)、大仏道(1件)、長谷小路(1件)、段葛(1件)、今小路(1件)、小町大路(1件)、小坪道(1件)				

4. 補注・参考文献

※1. 「鎌倉七口」の記述文は膨大であったため、登場した道の名前を記載するのみこととした。

- [1] 「金沢市街けるまちづくり基本方針」, 金沢市, p24, 2004. 4
- [2] 瀬田尚純, 横内憲久, 岡田智秀, 押田佳子: 「近世紀行文にみる鎌倉観光の成立過程に関する研究」, 景観・デザイン研究講演集, No. 6, pp. 100~107, 2010. 12
- [3] 瀬田尚純, 横内憲久, 岡田智秀, 押田佳子: 「近代以降における鎌倉観光の変遷に関する研究」, 景観・デザイン研究講演集, No. 7印刷中
- [4] 鎌倉市史編さん委員会: 「鎌倉市史近世近代家族地誌編」, 吉川弘文館, pp. 3~521, 1985